

平成28年度 基本評価調書

| | | | | | | | | |
|-----|----------|------|-------------------------|-------|-------------|-------|----|----|
| 施策名 | 移住・定住の推進 | 所管部局 | 総合政策部 | 作成責任者 | 総合政策部長 窪田 毅 | 施策コード | 02 | 09 |
| | | 照会先 | 地域戦略課地域戦略G (内23-462) | 関係課 | 地域政策課、地域戦略課 | | | |

Plan 施策推進計画 (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

1 目標等の設定(その1)

| 総合計画等の位置づけ | 総計 | 大項目(分野) | 中項目(政策の柱) | | 小項目(政策の方向性) | | 総合計画の指標 | |
|---------------------|---|---|----------------------------|--|--|----------------------|--------------------------|-------------------------------------|
| | | | 3人・地域 | (1) 協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築 | | 居住環境の魅力を活かした移住・定住の促進 | | 「ふるさと移住定住推進センター」の年間相談件数、ちょっと暮らし滞在日数 |
| | | 3人・地域 | (6) 連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり | | 個性と魅力を生かし様々な連携で支え合う地域づくり | | 地域おこし協力隊員数 本道からの転出超過数 | |
| | 北海道創生総合戦略 | A4311、A4321、A4322、A4331、A4332、A4335、A4336 | | 北海道 強靱化計画 | | 新・北海道 ビジョン | C05603、C06001、C06002 | |
| | 特定分野別計画等 | | | | | | | |
| 現状と課題 | <p>・本道の社会移動は、道外への転出が転入を上回る傾向が続き、2014(平成26)年は、約8千人の転出超過となっており、他地域からの交流人口の拡大や人口流入促進による地域の活性化が求められている。</p> | | | 施策目標 | <p>・「しごと・住まい・暮らし」などの情報を一元的に発信する移住に関する総合的な相談窓口を設置し、現役世代の移住・定住の促進に向けた取組を推進する。</p> <p>・本道の魅力を活かしたライフスタイルを提示するなどして、シーズンステイや二地域居住を促進する。</p> <p>・地域づくりを担う人材の育成・確保を図るため、「地域おこし協力隊制度」の積極的な活用を図る。</p> <p>・持続可能で質の高い暮らしをめざし、まちなか居住に必要な医療・福祉体制などの機能の集約を行うなど、まちなか居住の推進を進めます。</p> | | | |
| 施策の推進体制 (役割・取組等) | <p>【移住促進等】</p> <p>(道) ちょっと暮らしの普及促進、三大都市圏を中心としたプロモーション活動の促進、相談体制の充実・強化(北海道ふるさと移住定住推進センターにおける対応) 道内における官民連携の充実強化 市町村課題の検討・把握及び支援</p> <p>(国) ふるさと移住交流情報ガーデン、全国移住ナビ(HP)による情報発信 特別交付税による財政支援</p> <p>(市町村) ちょっと暮らしの実施、移住者の受入体制の整備、支援の実施</p> | | | <p>【地域おこし協力隊】</p> <p>(道) 地域おこし協力隊に係る研修会の実施、定住・定着に向けた市町村の取組支援 地域づくりサポート隊</p> <p>(国) 特別交付税による財政支援</p> <p>(市町村) 地域おこし協力隊の募集・採用の実施、隊員の活動・定着に向けた取組の支援</p> | | 施策の予算額 | | |
| | | | | | | H27 | 613 | |
| | | | | | | H28 | 9,544 | |
| H29 | | | | | | | | |
| 今年度の主な取組 | <p>本道への移住相談のワンストップ窓口である「北海道ふるさと移住定住推進センター」を東京に設置。</p> <p>運営にあたっては、観光施策等との連携により、本道の魅力をPRする。</p> <p>地域おこし協力隊を担当する市町村職員向けの研修や、実際に活動する隊員の活動や定住・定着に向けた研修会を開催する。</p> <p>北海道が委嘱する「地域づくりサポート隊」の定住・定着に向けた支援を行う。</p> <p>生涯活躍のまちに関する研究会を設置し、事業推進上の課題等を把握の上、本道の特性に応じた取組指針を策定するとともに、市町村計画の策定支援を行う。</p> | | | | | | | |

1 - 2 取組の結果

| (1) 主な取組の実績と成果 | | (関連する計画等) | | |
|---|---|-------------------------------|--|----------------------|
| 実 績 と 成 果 等 | | 総合戦略 | 強靱化 | ビジョン |
| 「北海道ふるさと移住定住推進センター」の設置により、「しごと」「住まい」「暮らし」情報を収集し、相談体制を強化するとともに、ポータルサイトを構築し、情報発信に努めた。 | | A4311、A4321、A4322、A4331、A4332 | | C05603、C06001、C06002 |
| 「地域おこし協力隊市町村職員等研修会」に87名が参加、「地域おこし協力隊全道研修」に155名が参加し、地域おこし協力隊制度への理解を深め、また隊員同士のネットワーク構築に寄与した。 | | A4335 | | |
| 空知・後志の両振興局に、「地域づくりサポート隊」を配置し、地域資源を活用した観光地づくりや空き家対策など、管内の広域的な課題解決のために活動している。 | | A4335、A4336 | | |
| 北海道版「生涯活躍のまち」構想推進事業について、道内市町村に対し取組方針、事業推進上の課題や道に期待する支援等に関する取組状況調査を実施した。今後、当該調査結果を基礎資料として活用し、市町村計画の策定支援を行うとともに、本道の特性に応じた取組指針を策定する。 | | A4332 | | |
| (2) その他の取組の成果等 | | | | |
| 国等提案・要望状況 | 「生涯活躍のまち」構想の推進に当たっては、施設整備費など、高齢者を受け入れるための環境づくりに必要な地方自治体の負担を十分に考慮し、所要の対策を講じるよう要望を行った。(H27.7要望先:内閣官房) | 施策に関する道民ニーズ | ・本道出身のUターン希望者からは、「仕事があれば北海道へ戻りたい」との声が多数寄せられることから、Uターンサポートデスク(経済部)、札幌市が東京に設置する「Uターン就職センター」等関係機関の取組と連携して相談対応を行っている。 ・北海道でのいなか暮らしを希望している方は、地域おこし協力隊以外で、どのような仕事があるのか、あるいは仕事が見つかりそうでも、住む家が無いとの相談を受けることから、ローカルワーク情報バンク、空き家情報バンクを活用して情報提供を行い、対応の強化を図る。 | |

Plan 施策推進計画 (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

Do & Check 施策評価

2 連携の状況

2 - 2 連携の取組状況

| 総合計画の 位置付け | 連携内容 | 連携先 | | 取組の実績と成果 |
|---------------|--|-------|----------|---|
| | | 施策コード | 関係部・関係課 | |
| | 経済部が北海道労働局とともに開催する北海道U・ターンフェアにおいて、道内企業の求人情報等とともに移住情報の提供を行うほか、総合政策部が開催する北海道暮らしフェアにおいて、道内企業の求人情報等の提供を行う。 | N0517 | 経済部雇用労政課 | 経済部が北海道労働局とともに開催する北海道U・ターンフェアにおいて、道内企業の求人情報等とともに移住情報の提供を行うほか、総合政策部が開催する北海道暮らしフェアにおいて、75名の方に道内企業の求人情報等の提供を行った。 |
| - | 「生涯活躍のまち」構想の推進にあたっては、ヘルスケアサービス事業の地域展開を推進する経済部と連携を図る。 | N0511 | 経済部産業振興課 | 「生涯活躍のまち(日本版CCRC)」構想、道内市町村の取組状況の把握、北海道版「生涯活躍のまち」構想推進事業について庁内勉強会を実施し、情報の共有化を図った。 |
| - | 空き家対策において、建設部の「北海道空き家情報バンク」と総合政策部の「移住情報ポータルサイト」との情報を相互にリンクさせて、移住定住施策との連携を図る。 | N0801 | 建設部住宅課など | 空き家対策において、建設部の「北海道空き家情報バンク」と総合政策部の「移住情報ポータルサイト」との情報を相互にリンクさせて、移住定住施策との連携を図っている。 なお、移住情報ポータルサイトには、約6万4千件のアクセスがあり、多くの方に本道の移住情報を提供しており、高い成果が見られる。 |
| | | | | |
| | | | | |

Plan 施策推進計画 (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

Do & Check 施策評価

3 成果指標の設定

3-2 成果指標の達成度合

| 主 | 主要指標名(単位) | 目標の基準 | | 今年度の目標 | | 最終目標 | | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか |
|---|----------------------|-------|--------|--------|--------|--|--------|------|--------|--------|--------|---|
| 「ふるさと移住定住推進センター」の年間相談件数 | | 基準年度 | H26 | 年度 | H28 | 最終年度 | H37 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか 来庁者のほか、電話・メールなど様々な方法で、目標を上回る相談があり、本道への移住に関心が高いといえる。 |
| | | 基準値 | 0 | 目標値 | 600 | 最終目標値 | 1,600 | | | | | |
| 〔指標の説明〕 本道の移住相談に係るワンストップ窓口である「ふるさと移住定住推進センター」の相談件数 | 北海道総合計画 北海道創生総合戦略 | 根拠計画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 年度 | H27 | H28 | 進捗率 | |
| | | | | 増加 | | $\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$ | | 目標値 | 400 | 600 | 1,600 | |
| | | | | | | | | 実績値 | 422 | | 422 | |
| | | | | | | | | 達成率 | 105.5% | | 26.3% | |
| ちょっと暮らし滞在日数 | | 基準年度 | H26 | 年度 | H28 | 最終年度 | H37 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか 本道への移住に関心のある方が利用する「ちょっと暮らし」日数は、過去最高を記録しており、本道への移住に関心が高まっているといえる。 |
| | | 基準値 | 66,952 | 目標値 | 69,956 | 最終目標値 | 84,000 | | | | | |
| 〔指標の説明〕 本道への移住関心者が、道内に体験移住を行うちょっと暮らし施設の利用者数 | 北海道総合計画 北海道創生総合戦略 | 根拠計画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 年度 | H27 | H28 | 進捗率 | |
| | | | | 増加 | | $\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$ | | 目標値 | 68,274 | 69,956 | 84,000 | |
| | | | | | | | | 実績値 | 69,574 | | 69,574 | |
| | | | | | | | | 達成率 | 198.3% | | 82.8% | |
| 地域おこし協力隊員数 | | 基準年度 | H26 | 年度 | H28 | 最終年度 | H37 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか 市町村への制度の浸透、北海道で活動することを希望する都市住民が多数いることを背景に、隊員数が目標値を上回る速度で増加している。 |
| | | 基準値 | 225 | 目標値 | 375 | 最終目標値 | 670 | | | | | |
| 〔指標の説明〕 都市住民が過疎地域等で、地域協力活動を行い、当該地域への定住・定着を図る「地域おこし協力隊」の隊員数 | 北海道総合計画 北海道創生総合戦略 | 根拠計画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 年度 | H27 | H28 | 進捗率 | |
| | | | | 増加 | | $\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$ | | 目標値 | 300 | 375 | 670 | |
| | | | | | | | | 実績値 | 348 | | 348 | |
| | | | | | | | | 達成率 | 164.0% | | 51.9% | |
| 本道からの転出超過数(歴年) | | 基準年度 | h26 | 年度 | h28 | 最終年度 | h37 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか 「ターン・リターン」など移住・定住の促進をはじめ、北海道らしさを活かした人の呼び込み・呼び戻しの流れをしっかりと定着させるために、引き続き、道の総合戦略に基づく取組を着実に進めるとともに、道内市町村の総合戦略の推進について積極的に支援していく必要がある。 |
| | | 基準値 | 8,000 | 目標値 | 7,000 | 最終目標値 | 0 | | | | | |
| 〔指標の説明〕 総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」に基づく、本道に転入してくる人と本道から転出する人の差 | 北海道総合計画 | 根拠計画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 年度 | H27 | H28 | 進捗率 | |
| | | | | 減少 | | $\frac{(\text{基準値}) - (\text{実績値})}{(\text{基準値}) - (\text{目標値})} \times 100$ | | 目標値 | 7,500 | 7,000 | 8,000 | |
| | | | | | | | | 実績値 | 6,334 | | 1,666 | |
| | | | | | | | | 達成率 | 333.2% | | 20.8% | |
| ちょっと暮らしに取り組む市町村数 | | 基準年度 | H25 | 年度 | H28 | 最終年度 | H31 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか 半数以上の市町村が実施していること、ちょっと暮らし利用者が移住へと結びついている等の効果から、ちょっと暮らしに取り組む市町村数が確実に増加している。 |
| | | 基準値 | 85 | 目標値 | 97 | 最終目標値 | 105 | | | | | |
| 〔指標の説明〕 本道への移住関心者が、道内に体験移住を行うちょっと暮らしを実施する市町村数 | 北海道創生総合戦略 | 根拠計画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 年度 | H27 | H28 | 進捗率 | |
| | | | | 増加 | | $\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$ | | 目標値 | 95 | 97 | 105 | |
| | | | | | | | | 実績値 | 95 | | 95 | |
| | | | | | | | | 達成率 | 100.0% | | 90.5% | |

| 関 | 関連指標名(単位) | 目標の基準 | | 今年度の目標 | | 最終目標 | | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか | | | | | | | | |
|--|-----------|-------|-------|--------|--|--------|-------|-------------|--------|-----------|---|------------|------|-----|--|--|--|--|--|--|
| しごとと生活情報を一体的に提供するポータルサイトのアクセス数 〔指標の説明〕 本道への移住に必要となる「しごと」「住まい」「暮らし」情報を一元的に発信するポータルサイトのアクセス数 | 基準年度 | H26 | 年 度 | H28 | 最終年度 | H31 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 本道への移住情報を望む方が多数いたことと、本道への移住に関する「しごと」「住まい」「暮らし」の情報発信を効果的に行うことで、多くの方がホームページを閲覧した。 | | | | | | | | | |
| | 基準値 | 0 | 目 標 値 | 56,000 | 最終目標値 | 80,000 | 年 度 | H27 | H28 | 進捗率 | | | | | | | | | | |
| | 根 拠 計 画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 目 標 値 | 48,000 | 56,000 | 80,000 | | | | | | | | | | |
| | 北海道創生総合戦略 | | 増加 | | $\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$ | | 実績値 | 63,662 | | 63,662 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 132.6% | | 79.6% | | | | | | | | | | |
| 関 | 関連指標名(単位) | 目標の基準 | | 今年度の目標 | | 最終目標 | | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 達成度合の分析 ほか | | | | | | | | |
| 地域おこし協力隊が任期終了後に当該地域に定着した数 〔指標の説明〕 都市住民が過疎地域等で、地域協力活動を行い、当該地域への定住・定着を図る「地域おこし協力隊の隊員数 | 基準年度 | H25 | 年 度 | H28 | 最終年度 | H31 | 達成度合 | A | 評価年度 | H27 | 本道での生活に高い魅力があること、市町村が地域おこし協力隊の定着のための支援等を積極的に行った結果、目標以上の隊員の定着が図られた。 | | | | | | | | | |
| | 基準値 | 27 | 目 標 値 | 50 | 最終目標値 | 98 | 年 度 | H27 | H28 | 進捗率 | | | | | | | | | | |
| | 根 拠 計 画 | | 増減方向 | | 達成率の算式 | | 目 標 値 | 38 | 50 | 98 | | | | | | | | | | |
| | 北海道創生総合戦略 | | 増加 | | $\frac{(\text{実績値}) - (\text{基準値})}{(\text{目標値}) - (\text{基準値})} \times 100$ | | 実績値 | 48 | | 48 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 達成率 | 191.0% | | 49.0% | | | | | | | | | | |
| 本施策に成果指標を設定できない理由 | | | | | | | | 判 定 | A | B | C | D | - | 結 果 | | | | | | |
| | | | | | | | | (直近の達成率(%)) | 100以上 | 90以上100未満 | 80以上90未満 | 80未満 | 算定不可 | | | | | | | |
| | | | | | | | | 主要指標 | 4 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 関連指標 | 3 | | | | | | | | | | | |

5 一次評価結果

| | 評価判定 | 成果指標の全体分析 | 施策全体に係る分析(具体的成果・連携状況) | 判定 |
|------|------|---|--|------|
| 主要指標 | - | <p><「ふるさと移住定住推進センター」の年間相談件数[A]> 来庁者のほか、電話・メールなど様々な方法で、目標を上回る相談があり、本道への移住に関心が高いといえる。</p> <p><ちょっと暮らし滞在日数[A]> 本道への移住に関心のある方が利用する「ちょっと暮らし」日数は、過去最高を記録しており、本道への移住に関心が高まっているといえる。</p> <p><地域おこし協力隊員数[A]> 市町村への制度の浸透、北海道で活動することを希望する都市住民が多数いることを背景に、隊員数が目標値を上回る速度で増加している。</p> <p><本道からの転出超過数(歴年)[A]> [ターン・Uターンなど移住・定住の促進をはじめ、北海道らしさを活かした人の呼び込み・呼び戻しの流れをしっかりと定着させるために、引き続き、道の総合戦略に基づく取組を着実に進めるとともに、道内市町村の総合戦略の推進について積極的に支援していく必要がある。</p> | <p><施策全体に対して、漏れなく有効な取組がなされているか> 本道への移住促進のため、情報発信や相談対応の強化、また市町村における受入体制の充実など、様々な取組を行っていることが認められる。</p> <p><施策を推進するに当たり、国等に要望・提案を行い、実現に向けて進捗しているか> 「生涯活躍のまち」構想の推進に当たり、所要の対策を講じるよう要望を行っている。</p> <p><道民からのニーズを的確に把握し、施策推進に役立っているか> ちょっと暮らし利用者のアンケート調査、各種相談業務等を通じてニーズを把握し、施策推進に役立っている。</p> <p><施策を推進するにあたり、他の施策、部局と連携した成果を確認できるか> 移住施策の推進にあたり、関係各部・関係機関との連携強化のための会議を開催するほか、経済部のUターンサポートデスクと連携して移住希望者への「しごと」情報の提供に努めるほか、北海道暮らしフェアに、Uターン、新規就農、福祉分野の担い手確保のためのブースを出展するなど、関係部と連携した成果が確認できる。</p> | + 評価 |
| 関連指標 | - | <p><ちょっと暮らしに取り組む市町村数[A]> 半数以上の市町村が実施していること、ちょっと暮らし利用者が移住へと結びついている等の効果から、ちょっと暮らしに取り組む市町村数が確実に増加している。</p> <p><しごとと生活情報を一体的に提供するポータルサイトのアクセス数[A]> 本道への移住情報を望む方が多数いたことと、本道への移住に関する「しごと」「住まい」「暮らし」の情報発信を効果的に行うことで、多くの方がホームページを閲覧した。</p> <p><地域おこし協力隊が任期終了後に定着した数[A]> 本道での生活に高い魅力があること、市町村が地域おこし協力隊の定着のための支援等を積極的に行った結果、目標以上の隊員の定着が図られた。</p> | | |

| | | | |
|------|---------|-------|----------------------------------|
| 総合評価 | 概ね順調に展開 | 評価の概要 | 指標の達成度合が順当であるため、評価は「概ね順調に展開」とする。 |
|------|---------|-------|----------------------------------|

| 次年度に向けての課題と今後の方向性(対応方針) | | (関連する計画等) | | |
|-------------------------|--|-------------------------------|-----|----------------------|
| 方針 | 課題と方向性 | 総合戦略 | 強靱化 | ビジョン |
| | 本道への移住促進のため、情報発信や相談対応の強化に努め、東京に設置する移住相談窓口の運営にあたっては、民間のノウハウの活用や、観光分野との政策間連携などに努める。 | A4311、A4321、A4322、A4331、A4332 | | C05603、C06001、C06002 |
| | 地域への定着を目的とした地域おこし協力隊の隊員数を増加させるため、市町村に対し、制度への理解や活用を促すとともに、隊員の定着に向けた取組が円滑に行われるよう、市町村と連携して取り組む。 | A4335、A4336 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|-----|----------|-------|----|----|
| 施策名 | 移住・定住の推進 | 施策コード | 02 | 09 |
|-----|----------|-------|----|----|

Check 施策評価

6 二次評価結果（知事による評価）

| | |
|------|---|
| 改善意見 | <p>【施策間の連携状況(関連する施策間・部局間で一層の相互連携が必要)】 総合計画における「農林水産業の持続的な成長」や「良質で安定的な雇用の場づくりと産業人財の育成・確保」、「協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築」を進める観点から、総合政策部、経済部、農政部、水産林務部等の連携により、より効果的な取組を検討すること。</p> |
|------|---|

平成28年度 基本評価調書

| | | | | |
|-----|----------|-------|----|----|
| 施策名 | 移住・定住の推進 | 施策コード | 02 | 09 |
|-----|----------|-------|----|----|

| | | |
|-------|--------|--------|
| Check | 事務事業評価 | Action |
|-------|--------|--------|

7 二次評価結果（知事による評価）

| 整理番号 | 事務事業名 | 一次評価(平成29年度の方向性)(再掲) | | | | | | 二次政策評価 | | 主な対応 | | |
|----------|---------------------------|----------------------|------|------|--------|----------|----------|--------|------|----------|-----|---------------|
| | | 重点点検事項 | | | 必要な見直し | 予算 | サービス | 方向性 | 方向性 | 二次政策評価意見 | 方向性 | H28二次評価意見への対応 |
| | | 連携事業(整理番号) | 終期なし | 推進事項 | | | | | | | | |
| 02130899 | 地方創生対策推進費(当初執行事業) | | | | | - | 継続(現状維持) | 現状維持 | 現状維持 | | 縮小 | |
| 02140700 | 地域づくり推進費(北の大地への交流・定住促進事業) | | | | | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 現状維持 | 現状維持 | | 拡充 | |
| 02140900 | 地域おこし協力隊定住促進事業 | | | | | 継続(現状維持) | 継続(現状維持) | 現状維持 | 現状維持 | | 統合 | |

| | | | | |
|-----|----------|-------|----|----|
| 施策名 | 移住・定住の推進 | 施策コード | 02 | 09 |
|-----|----------|-------|----|----|

Action 施策・事務事業評価

8 施策評価結果の反映（各部署等が実施）

（1）一次評価結果への主な対応

| 対応方針 | 主 な 対 応 |
|------|--|
| | <p><新たな取り組み等> 平成28年度に、東京に移住相談窓口「北海道ふるさと移住定住推進センター」を開設し、相談対応の強化を図ったところ。 センターでは地域に特化した情報発信を行う「北海道ウィーク」を開催するなど地域間の連携を図るとともに、運営にあたっては、同じビル内の旅行代理店や本道への観光相談窓口、道産品のアンテナショップなどと連携を図るなど、政策間連携を図る。 （いなか暮らし応援プログラム推進事業）</p> |
| | <p><新たな取り組み等> 地域おこし協力隊員向けの全道研修会を開催し、隊員同士の交流促進を図り、定着促進のための相談に対応するとともに、市町村の担当職員向け研修会を開催し、制度への理解や活用を促す。 （北の大地への交流・定住促進事業）</p> |
| | |
| | |
| | |

（2）二次評価結果への主な対応

| 意見区分 | 主 な 対 応 | 意見区分 | 主 な 対 応 |
|------------|---|------|---------|
| <施策間の連携状況> | <p>本道への移住にあたり必要な「しごと」「住まい」「暮らし」に関する情報を一元的に収集、提供するため、関係機関・関係部で構成する「北海道移住・定住推進連携会議」を開催し、経済部、農政部、水産林務部等との連携を図る。 また、東京の「北海道ふるさと移住定住推進センター」を活用し、Uターンや一次産業に関する情報提供を行うほか、セミナーの開催や個別相談の実施など、関係機関等が一体となった取組を推進する。</p> | | |

平成28年度 基本評価調書

| | | | | |
|-----|----------|-------|----|----|
| 施策名 | 移住・定住の推進 | 施策コード | 02 | 09 |
|-----|----------|-------|----|----|

Action 施策・事務事業評価

9 事務事業評価結果（方向性）への対応状況（各部局等が実施）

（1）事務事業評価で示した方向性への対応状況

| 区分 \ 方向性 | 見直し検討 | 拡 充 | 現状維持 | 縮 小 | 統 合 | 廃 止 | 終 了 | 合 計 |
|----------|-------|------|------|------|------|-----|-----|------|
| 評価結果 | 事業 | 事業 | 3 事業 | 事業 | 事業 | 事業 | 事業 | 3 事業 |
| 反映結果 | 事業 | 1 事業 | 事業 | 1 事業 | 1 事業 | 事業 | 事業 | 3 事業 |

（2）次年度新たに実施する事業

| |
|-------------|
| 次年度新規事業(予定) |
| 0 事業 |